

中山義秀文学賞公開選考会

日時 令和7年9月28日(日) 13:30～

場所 新白信ビル イベントホール
(白河信用金庫 西支店 白河市立石96番地)

入場無料・要申込

下記事務局まで電話またはFAX、
窓口にてお申し込みください

候補作品

令和6年4月1日から令和7年3月31日までに刊行された書籍で、日本の歴史を素材とした文学作品(歴史・時代小説)の中から、最も優れた作品が選ばれます。受賞者には正賞および副賞賞金100万円ほかが贈呈されます。



たかせ のいち
高瀬 乃一

『梅の実るまで』

茅野淳之介幕末日乗』

新潮社

お役目がなく武芸はからっきし、学問で身を立てたいが時流には乗れない茅野淳之介は、幼なじみの同心から頼まれたある娘の見張りをきっかけに、攘夷の渦中へと呑み込まれてゆく。徳川の世しか知らないながらも、武士という身分に疑問を抱き始めた青年が、近しい人々の非業の死を乗り越えようやく見つけた、次代につながる道とは。生へのひたむきな問いが胸を打つ、人間味溢れる時代小説。



きうち のぼり
木内 昇

『雪夢往来』

新潮社

「越後では家の二階を越えるほど雪が降り」塩沢から来た鈴木儀三治(牧之)の言葉を、江戸者たちは大法螺だと笑い飛ばした。雪国の暮しぶりや綺談を世に広めたい。儀三治の書いた原稿は人気戯作者・山東京伝の目に留まり、出板へと動き始める。しかし板元からの金銭要求、京伝をはじめとする仲介者の死去にたびたび見舞われ、原稿は師・京伝への対抗意識に燃える滝沢馬琴の手に渡る。熱心に改稿の助言を授けてくれる馬琴のもとで、ようやく世に出るかに思われたが——。初稿から刊行まで、実に四十年を要した江戸のベストセラー『北越雪譜』の数奇な運命と虚々々々の江戸出版界を鮮やかに描き出す長編小説。



やっ やぐるま
谷津 矢車

『二月二十六日のサクリファイス』

PHP研究所

二・二六事件の“真の犠牲(サクリファイス)”は誰だったのか——
石原莞爾とともに事件の捜査をすることになった憲兵隊員を通して軍や国家の“歪み”を描き出す、衝撃の長編歴史小説。
侍従武官長として天皇に近侍している本庄繁陸軍大将を義父に持ち、蹶起した青年将校ともつながっていた山口一太郎大尉。二・二六事件の重要容疑者である彼の調査を憲兵隊員・林逸平が任せられるも、なぜか戒厳司令部参謀・石原莞爾が協力すると言いついてきた。獄中でも、ストーブのある部屋での兵器の開発を許される山口を取り調べるも——。
正義とは何か、国家としての大義はどこにあるのかを鋭く突き付ける、著者渾身の勝負作!

選考委員 (五十音順)

いとう じゅん
伊東 潤氏
(作家)

きのした まさき
木下 昌輝氏
(作家)

さわだ とうこ
澤田 瞳子氏
(作家)

ほそや まさみつ
細谷 正充氏
(文芸評論家)

主催：中山義秀顕彰会

共催：白河市 白河市教育委員会 中山義秀記念文学館

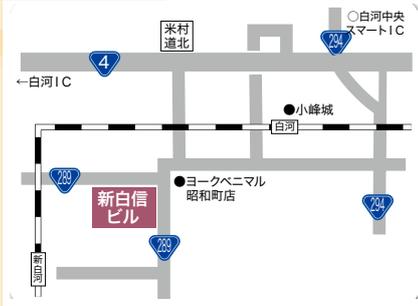
後援：福島民報社 福島民友新聞社 朝日新聞福島総局 毎日新聞福島支局 読売新聞東京本社福島支局 河北新報社(公財) 立教志塾(公社) 白河青年会議所 NPO 法人しらかわ歴史のまちづくりフォーラム

申込先：中山義秀顕彰会事務局(中山義秀記念文学館内)

電話／0248-46-3614 FAX／0248-46-3702

※窓口・FAXでお申込される際には、下記欄に必要事項をご記入ください。お電話での申込の際には、同事項をお伝えください。

会場案内図



	氏名	フリガナ	住所	電話番号
1				
2				
3				